熊本保健科学大学 News Letter

発行：令和２年 11 月 25 日 No. 114
作成：企画・人事課

学長のコラム

認証評価の「実地調査」を終えて

今月 17 日、18 日の２日間にわたって、認証評価の「実地調査」が Zoom を用いて実施された。面談対応者として参加の教職員各位ならびに１年以上にわたって受審準備に携わって頂いたリエゾンメンバーに心から感謝申し上げる。

認証評価制度については昨年７月の本欄で紹介したが、平成 16 年度から全ての大学・短期大学・高等専門学校は、７年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが法律で義務付けられたのが始まりである。本学では日本私立大学協会を母体に設立された「日本高等教育評価機構」による認証評価を受審しており、第１回目を平成 21(2009)年度に、２回目は平成 26(2014)年度に受審している。今回受審の第三期では、第二期の４つの基準から６つの基準に増え、基準１＜使命・目的等＞、基準２＜学生＞、基準３＜教育課程＞、基準４＜教員・職員＞、基準５＜経営・管理と財務＞、基準６＜内部質保証＞についての評価が実施され、加えて独自基準である基準Ａ＜本学の場合は地域貢献＞についてもヒアリングが実施された。

評価は、日本私立大学協会に属する各大学による相互評価、すなわちピアレビュー形式で実施され、本学の評価員は関西および関東地区の５つの医療系大学の学長、学部長、事務部長レベルの方々５名であった。評価員からは、事前に送付した自己点検評価書と添付資料および事前質問の内容に基づいて、細部にわたる詳細な質問がなされた。中には「そこまで聞くの？」と感じる程の内部情報にまで踏み込んだ質問もあったが、今後の改善に役立つアドバイスも数多く頂戴した。特に、教職員の行動規範（行動指針）の策定や多岐にわたる規程の統一性の保持などは、早急に取り組むべき課題と考えられた。

一方で、基準６＜内部質保証＞の観点からは、アセスメントプランが年間スケジュールに沿って具体性を持って計画されている点が高く評価された。また、基準Ａ＜地域貢献＞に関しては、学生によるボランティア活動とともに地域に密着した取り組みが好評であった。とくに学生ボランティアについては、学生からのヒアリングによって「多くの学生がボランティアに積極的に取り組んでいることが良く理解出来た」とお褒めの言葉を戴いた。

今回の受審に関する評価報告書（案）は来年１月中旬に送付されることになるが、課題となった行動規範の策定や諸規程の見直しについては、早急に検討を進めたいと考えており、皆様のご協力をお願いしたい。

事前に送付した自己点検評価書と段ボール１箱分の添付資料

11 月・12 月・１月の主な行事予定

11 / 27（金）	防災訓練
12 / 5（土）	助産別科一般入試、認定看護師教育課程（脳卒中看護分野）入試
12 / 9（水）	銀杏学園理事会
12 / 10（木）	賞与支給式
12 / 18（金）	学校法人銀杏学園忘年会 﨑元達郎理事長の叙勲祝賀会
12 / 25（金）	仕事納め
1 / 4（月）	仕事始め
1 / 20（水）	後期授業終了
1 / 22（金）	後期定期試験（～2/1）

※12/28（月）は 11/21 推薦入試日分の振替休日です。
12/29（火）～1/3（日）が年末年始休暇となります。

第 24 回日本看護管理学会学術集会ポスター賞受賞！

看護学科の藤野みつ子教授が第 24 回日本看護管理学会学術集会においてポスター賞を受賞されました。演題は「熊本地震が被災した病院の看護師長に与えた影響～全患者避難を余儀なくされた看護師長の役割：震災後３年目」です。

藤野先生おめでとうございます！

（文責：企画・人事課）

動物慰霊祭

コロナ禍ではありましたが、10 月 21 日水曜日、令和２年度動物慰霊祭を執り行いました。

まず犠牲になった動物たちの御霊に感謝の意を込めて参列者全員で黙とうを行いました。竹屋学長、学生代表の医学検査学科３年久多見 健太さんが、動物たちへの慰霊の詞を述べ、﨑元理事長、竹屋学長、動物実験委員長の田中(聡)教授、学生代表の医学検査学科３年本田 奨さん４名が献花を行い、祭式は終了いたしました。

祭式終了後、参列者も献花を行い、動物たちの冥福を心よりお祈りいたしました。

（文責：総務課）

オンライン市民公開講座 2020
私たちの経験から伝える-いのちの授業

去る 10/18（日）、KKT イノベート社屋内からリアルタイム配信されたオンライン市民公開講座（主催：くまもと県民テレビ，熊本県，熊本赤十字病院）で、私自身の透析と腎移植経験、さらに持病とともに歩む患者として得た教訓と、医師、研究者として得た成果ついて話して参りました。

with corona 時代の新たな講演会は、ネット環境さえあればどこからでも視聴可能で、700 名を超える視聴者は県内のみのらず、遠くは北海道、カリフォルニア州から参加された方もおられました。短い時間ではありましたが、多面的に掘り下げられた内容の公開講座で、タレントえみりィーさんが今まさに向かい合っている多発性骨髄腫との闘病生活は、遠隔でも十分に想いの伝わるお話でした。また日赤の余湖先生は、小児救急での臓器提供という非常に難しいテーマについて、熊大移植外科の日比先生は国内肝移植の現況を伝えられ、臓器移植の課題が浮き彫りになりました。【ダイジェスト動画が Dr. テレビたんホームページでご覧になれます。】

（文責：リハ学科 PT 専攻 飯山準一）

医学検査学科　臨地実習認定証授与式

10 月 30 日に医学検査学科 3 年生が参加して臨地実習認定式が執り行われました。今年度はコロナ禍での臨地実習認定式のため、臨地実習適格認定証は学長から学生代表の本田奨さんに「おめでとう」の言葉とともに授与されました。学長告示では「感染症対策を十分に実施し、いろんな技術やいろんな人とのコミュニケーションを学んできてほしい」との話がありました。その後、学生代表の久多見健太さんによる「ヒポクラテスの誓い」の宣誓を行いました。最後に医学検査学科長の訓示では「今まで学んできた知識や技術が現場でどのように生かされているのか体感してきてほしい」との話があり、厳かな雰囲気の中短時間で滞りなく終了しました。今年度の臨地実習は 11 月 2 日から 1 月 15 日までの 47 日間の日程で実施されます。（文責：医学検査学科 永田和美）

4 年次ピア・サポーター活動感謝会

去る 10 月 15 日（木）、新レストラン ピリアにて 4 年次ピア・サポーター活動感謝会を開催しました。本来ならば、全学年のプチ・サポーター、ピア・サポーターが一堂に会し交流を深める場ですが、今年は 4 年生のみの参加となりました。

杉内センター長から感謝状と記念品が贈呈された後、4 年生を代表して看護学科 前島史佳さんが「これまでの活動を通して、コミュニケーションスキルの向上や学科・学年を越えた仲間との時間にやりがいや楽しさを感じ、自信につながりました。今後、医療専門職として働くうえでとても大きな力となると思います。」という後輩へのメッセージを語ってくれました。

竹屋学長からは労いと激励の言葉をいただき、ピア・サポーターたちはサポーターとしての自覚と誇り、国家試験へ向けた決意、そして将来への期待を新たに感じたようでした。（文責：学生相談・修学サポートセンター）

令和 2 年度さつまいも大収穫祭

COVID-19 による遠隔授業対応の OT 専攻 1 年生に代わって、5 月には教職員有志の皆様（以下、芋の会会員）に苗植え作業のご協力をいただきました。あれから豪雨や猛暑を乗り切り、立派に育ったさつまいもの収穫作業を、対面授業再開で登校可能となった学生と行うことができました。今年は特に顔を合わせる機会が少なかったので、協力して行う収穫作業を通じて学生同士の交流を楽しんでいました。学生は持ち帰った芋を各自で調理し、作業分析をして manaba でレポートとして提出してもらいましたが、さつまいも同様に良い出来でした。「せっかくなので、収穫の喜びを芋の会会員の皆様とも分かち合いたい」と思い、大収穫祭を 10/8 と 10/30 の 2 回開催しました。実習や講義などでなかなかスケジュールを合わせられなかったのですが、延べ 37 名の皆様にご参加いただき、楽しい時間をありがとうございました。

（文責：リハ学科 OT 専攻 爲近岳夫）

共同研究講座開設記念講演会

令和 2 年 10 月 23 日（金）に 50 周年記念館にて「品質保証・精度管理学共同研究講座開設記念講演会」が開催されました。開式に伴い、﨑元達郎理事長、竹屋元裕学長、来賓としまして熊本県健康福祉部健康局 局長 岡﨑光治様、KM バイオロジクス株式会社 代表取締役社長 永里敏秋様、一般財団法人化学及血清療法研究所 理事長 木下統晴様よりご挨拶をいただきました。

また、東京理科大学薬学部の鹿野真弓教授、櫻井信豪教授、坂田政幸プロジェクト研究員が Zoom で自己紹介をされました。

続きまして、「品質保証・精度管理学共同研究講座の概要と、医薬品の品質保証における課題」と題しまして蛭田修特命教授より、「医療機関における ISO15189 認定と品質保証−現状と課題−」と題しまして松原朱實客員教授よりご講演をいただきました。

最後に、杉内博幸副学長よりご挨拶をいただき、閉会いたしました。（文責：企画・人事課）

※この記事は公開していません。

私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科言語聴覚学専攻の畑添 涼 助教に投稿していただきました。

3 歳の長女に続き、2020 年 10 月、畑添家に男の子が誕生してくれました。長女が誕生するときは、期待に胸をふくらませていました。その反面、長男の誕生に向けては不安の方が大きかったように感じます。『コロナ禍で立会ができない』『妻が入院する間、娘とふたりで大丈夫だろうか』何より、長男の誕生により娘が寂しい想いをする機会が増えるのではないかという不安が大きかったです。

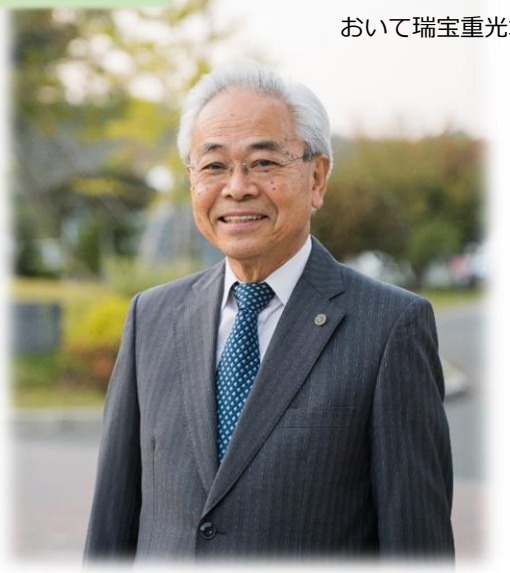
いざ、ふたりの生活が始まると、娘は寂しさを飲み込みながらお手伝いをたくさんしてくれました。1 週間が経つころには、物足りなさを感じていたほどあっという間のふたり暮らしでした。妻と長男が退院した後も、娘は私たちと一緒になって主体的に長男のお世話をしてくれます。私の不安な想いは取り越し苦労だったようです。

以前から娘は、「やってみよう！」という掛け声とともに何にでも挑戦をします。このような娘の姿を肌で感じながら、とても大きな勉強をさせてもらっています。

特集

令和２年秋の叙勲受章

橋梁構造工学の第一人者であり、熊本大学学長、放送大学熊本学習センター所長を経て、本学の学長（H27～30）、理事長（H29～）として教育改革やキャンパス拡張事業等を実施し、高度医療人の養成と私学の発展にも貢献されている﨑元達郎理事長が秋の叙勲において瑞宝重光章を受章されました



――この度は秋の叙勲、おめでとうございます。

﨑元 ありがとうございます。ホームページでもお伝えしましたが、私の貢献は、75 歳までの生存と幸運ぐらいです。

この度の叙勲は大変光栄なことですが、大阪大学の恩師、熊本大学の先輩、同僚、教職員、学生諸君（特に、共に学んだ皆さん）、放送大学熊本学習センターの教職員、人生経験豊かな学生の皆様、そして、熊本保健科学大学の教職員の皆様と一緒に、教育、研究、管理運営等に活動した約 50 年間の総体に対してなされたもので、皆様の存在とご尽力無くしてはあり得なかったものです。

――先生に人を巻き込む才能があったからだと思うのですが、こちらに熊本大学が提出された功績調書の概要がありますので、皆さんと共に歩んだ約 50 年間をこの機会に少し教えてください。こちらで選ばせていただいた 7 つの項目についてです。

①全国に先駆けて学内に無線 LAN を設置し高度情報化キャンパスを実現した。

②eラーニングによりeラーニング専門家を養成する「教授システム学専攻」（修士課程）の設置を主導し国立大学初の新機軸を開拓した。

「無線 LAN」に「ｅラーニング」。最近では耳なじみがありますが、先生が取り組まれたのはいつのことですか?

インターネット大学院の設置

﨑元 平成 15（2003）年頃です。教育用コンピューター1,300 台と無線 LAN により、充実した情報通信技術（ICT）を駆使した高度情報化キャンパスを全国の国立大学に先駆けて実現しました。全国に先駆けて開発した学務システム『SOSEKI』も成果のひとつです。

平成 18（2006）年には、全国どこからでも学習者の好きな時間に授業を受けることができるインターネット大学院「教授システム学専攻」（修士課程。現在は博士課程もあり）を設置し、さらに、ｅラーニングの一層の推進と支援体制の確立を目指し、学内共同教育研究施設「ｅラーニング推進機構」を設置しました。

――平成 18（2006）年はトリノオリンピックで荒川静香選手が金メダルを獲得した年ですね。2008 年にソフトバンクが日本で初めて iPhone を発売したので、スマホが普及する前のことで本当に「先駆け」なのですが、どうしてここに目を付けられたのですか。

﨑元 経緯を申し上げますと、当時、ｅラーニングが始まろうとする頃で、法人化の勢いの中で、東京農工大等と連携して、東京にｅラーニングで学ぶ大学院を造ろうという話が持ち上がったのですが、上手くいきませんでした。そこで、「それなら熊大だけでやろう!」ということで、学長特別補佐の先生方との議論の中で、この専攻を造ることになりました。それこそ、トップダウンでした。

――頓挫しそうな状況で「自分たちでやろう!」と決断されたのは「乗りかかった船」ですか?それとも「信念」ですか?

﨑元 どちらかと言えば「乗りかかった船」ですかね。

その頃、インストラクショナルナルデザイン（教育設計学）分野の専門家は日本にあまりいなかったのですが、この分野の第一人者鈴木克明先生を招へいできたことが、設置を可能にしました。建前どうり、学生は、東京の大会社の企業内教育担当者、民間ｅラーニング事業者、高等教育機関の教員等、ほとんど関東からの学生です。

――関東の方はアンテナの張り方が上手でしたね。

﨑元 ｅラーニング推進機構には、ｅラーニング教材をつくるスタジオも造り、全学の教員の教材造りを支援するシス

テムを構築しました。私の在任中の仕事はここまでですが、その後平成 29（2017）年には、現原田学長の下で、これら組織をけん引する組織として「教授システム学研究センター」が造られ、鈴木克明センター長のリーダーシップのもと、インストラクショナルデザインの世界的拠点を目指す三つの研究部門と事業部門としてのｅラーニング推進室を設置して発展的に活動しておられます。

今般のコロナ禍での全学の遠隔授業を支えたのも、この組織です。大いにその存在感を示しました。

――不測の事態にも首尾よく対応できたのも先見性ですね。

﨑元 現在、本学の吉村友希講師（OT 所属）がこの専攻で、学位取得を目指しておられるのが大変頼もしく、この専攻を造った私としては回りまわってお役に立てることを嬉しく思っています。

――*③大学院先導機構を充実させ、3 件のグローバル COE の獲得に貢献し、熊本大学の研究大学としての新たな基礎を築いた。*とありますが、この「大学院先導機構」という言葉を初めて目にしましたので、調べましたところ、「大学院における研究教育の活性化及び変革発展を先導することを目的としている」とありました。

研究の全学的な組織、ということでしょうか。

﨑元 はい、そうです。

大学院先導機構は、私の前任の（故）江口吾郎学長の頃に造られたものですが、平成 15 年度から、「21 世紀 COE プログラム」（毎年億単位の文科省の支援あり）採択など、すでに学外から高い評価を得ている世界最高水準の研究を「拠点研究 A」とし、世界最高水準を目指しうる研究を「拠点研究 B」として選定し、それらの研究を学内で 5 年間重点的に支援することによって、次の COE 採択に向け学内研究の活性化に取り組みました。

――外部資金を獲得している研究に上乗せですか？ すでに外部資金を獲得している研究に大学として助成するものですか?

「グローバル COE プログラム」の採択

﨑元 文科省等に対して、大学の本気度を示す策としては、それなりの意味を持ちました。

21 世紀 COE としては、発生医学研究センターのプログラム（多賀哲也拠点リーダー、平成 14～18））と衝撃エネルギーのプログラム（秋山秀典拠点リーダー、平成 15～19）の 2 件が採択されました。そして、この拠点研究の支援システムの成果もあって、平成 20 年度には、上記 2 プログラムの昇格に加えて、エイズ学研究センターのプログラム（満屋裕明拠点リーダー、平成 20～２４）の計 3 件が「グローバル COE プログラム」に採択されました。もちろん、このことは、優れた研究をやってこられた先生方の力であるのですが、旧帝大を除く熊本大学規模の大学で、グローバル COE を 3 件獲得した大学は少なく、熊本大学の研究拠点大学の基礎を形作った出来事だったと考えています。なお、本学の P&P などの仕組みは、当時熊大副学長をしていただいていた小野元学長が導入されたもので、規模は小さいですが、同じ趣旨ですので、研究を更に飛躍させる為に活用していただきたいと思っています。

――世界初のエイズ治療薬を発見した満屋先生の研究は NHK 放送でも拝見しました。

今回、ホームページを閲覧しところ、「【学内】アマビエ研究推進事業 公募開始」 と掲載されていましたが、アマビエって、あのアマビエ（妖怪）ですよね? 世界的な研究を促進する機構のようですが、幅が広くて驚きました。

﨑元 私もホームページを見ましたが、COVID19 に関する研究プロジェクトのようです。ネーミングが素晴らしいですね。

――*次に④シンクタンク機能を持つ共同研究施設「政策創造研究センター」を設置し、地域が抱える課題や政策へ様々な提言を行う仕組みを構築した。*ですが、今回、インタビューするにあたって、熊本大学さんが提出された功績概要について下調べしました。国に提出するだけあって、隙のない説明で感服いたしました。こちらのセンター設置についてはいかがでしょうか。

﨑元 「政策創造研究センター」は、大学と地域をつなぐ窓口として作ったセンターで、学長手持ちの教員枠から 3 席を持ちだし、医薬系から 1 名、理工系から 1 名、法文系から 1 名の教員を学内公募しました。３教員は、それぞれの分野の地域課題を受け入れる窓口であり、学部の研究者と繋いで、課題に強い学部の先生が、研究や政策提言につなげるというシステムでした。

――先生は大学の知的財産を地域に還元しようと、あらゆる面からアタックされますね。

﨑元 このセンターの作り方や発想は、本学の「地域包括医療教育研究センター（ちいき楽暮）」の設置に応用させていただきました。今回の認証評価でも、ちいき楽暮の存在は、良い評価をいただきましたので、さらなる活性化と発展に全学の協力をお願いしたいと思っています。

――おっしゃるとおり、本学と地域との連携については、認証評価で高評価でした。面談では各ご担当者が的確に地域との連携を説明されたので評価員によく理解していただけたのではないでしょうか。

つぎの⑤*地域の支援を得て、「永青文庫研究センター」を設置し、細川時代の肥後・熊本の政治経済の仕組みを明らかにする道を開いた。*というのも地域からの依頼ですか。

﨑元 「永青文庫」は、一般の皆様にとっては、今、県立美術館本館で展示されているような芸術品のイメージが強いのですが、熊本大学図書館は、細川時代の古文書数万点の寄託を受けています。そこに書かれた細川時代の政治経済の仕組みを明らかにするためには、まず、それらを、解読して、現代語に翻訳する必要があります。それを、目的とするのが、「永青文庫研究センター」で、肥後銀行などからの寄付で熊本県に造られた「永青文庫常設展示振興基金」の一部の寄付を受け、平成 16 年に設置され運営されています。

その後、6 万点余の資料の目録作成と 5 冊の重要資料の出版をして、その存在価値を発揮し続けています。

――古文書の解読をもう 15,6 年されているということですね。何か新たな発見がありましたか。

﨑元 確か、信長のような偉い武将の手紙等の発見があったように記憶しています。私の専門の橋のことで申し上げると、手永や惣庄屋※の仕組みの存在が、通潤橋や霊台橋をはじめとする江戸時代の石橋が熊本に一番多く造られることになった理由の一つであることが永青文庫の古文書から明らかになってきました。

――通潤橋とは、山都町にある放水される石橋ですね。調べたところ、江戸末期から明治中期の約 70 年間、アーチ式石橋を作る技術をもった当時のハイテク・プロジェクト集団「肥後の石工」が至るところに見事な石橋を作り続けたそうですね。

﨑元 その金策を中心になって行ったのが惣庄屋でした。

※手永（制）：江戸時代に大名の細川家がその領地に導入した行政制度。領内を「手永」という小区画に分割けて村を束ね、それぞれの手永に会所（かいしょ）という役所を置き、管轄する最高責任者として惣庄屋（そうじょうや）を置いた。

――また、国際交流についてもご尽力が実を結んでいらっしゃいますね。

⑥*世界各地の大学と交流協定を締結しつつ、海外へのオフィス設置や海外フォーラムを開催する等、熊本大学の国際的知名度向上に尽力した。*

⑦*熊本大学独自の「国際活動奨学制度」を設立し、毎年 100 名以上の学生が自ら提案した海外活動を行って国際的視野を広げることに貢献した。*

熊大の留学制度は充実していることをホームページから知っていました。やはり、制度化の理由は「人間力」の醸成でしょうか。

100 日間の北米大陸一周

﨑元 そのとおりです。私は、大阪大学の博士課程 1 年生（25 歳）の時、橋の研究者になることを決心し、約 3 か月、北米大陸一周の旅にチャレンジしました。その当時、日本の橋梁技術は、アメリカより数十年後れを取っていたからです。橋の設計のアルバイトで、当時（50 年前）の 50 万円ほどを稼ぎ、旅費としました。

――つい「1950 年代・50 万円・価値」と検索してしまいました。計算したのですが、約 8.4 倍だったので 420 万です!

﨑元 荒稼ぎしていましたね笑。

ブラジル移民船に乗り、ハワイ経由で 2 週間後サンフランシスコに上陸、北上して、シアトル、バンクーバー、そして、カナディアンロッキーを東進して、トロント、南進して、ニューヨーク、ワシントン、西進して、シカゴ、南進して、ニューオーリンズ、西進してサンフランシスコへと一周しました。

――船で 2 週間も。

﨑元 大変な船酔いの経験もしましたが、気楽に遊びに海外へ行く人、決死の覚悟でブラジルに移民される家族。この方々のギャップが印象に残っています。

アメリカ大陸に上陸後、移動にはグレイハウンドという高速バスの 100 日間の乗り放題チケットを活用しました。主たる宿は YMCA です。1 日 10 ドルの貧乏旅行で、橋と大学の研究室を巡りました。生きていくだけで精いっぱいで、死にそうな目にも合いましたが、無事帰還。今考えるとよく行ったなと思いますがかなりの自信になったのは確かです。人間力がついたのでしょうか？

――死にそうな…ですか。これ以上の人間力を高める（高まった）状況はなさそうです。

﨑元 この経験が、熊本大学の「国際活動奨学金」設立の理由です。2,000 万円用意し、一人 20 万円、100 名を支援する計画でした。各学部に採用人数を配り、学生は、海外で何をしてくるかというプロポーザルを自分で書いて提出、学部で審査の上、選定するという方式としました。この制度で、今でも、200 名近くの学生諸君が海外経験をして、国際力を高め成長しています。

本学の、イリノイ州への海外留学奨学制度もこの経験を活かしています。学生が本当に成長して帰ってくるのには、驚かされます。今年は、コロナ禍で実施できませんでしたが、来年は、是非再開したいものです。

――本当にそうです。現在、この留学経験者は 59 名ですが、みなさん「貴重な経験をさせてもらった」と大学に感謝の気持ちを表されます。今年度は残念でした。

ご専門は橋梁構造工学で、愛車のナンバーは「4184（良い橋）」でいらっしゃいますが、今まで携わった橋で、記憶に残っている橋、お気に入りの橋があれば教えてください。

﨑元 大阪湾岸線の阪神高速道路公団の橋、安治川大橋、東神戸大橋などについては、スーパーコンピューターを使って、強度解析をし、設計上の安全性を証明する仕事を多くしました。

熊本での仕事としては、熊本アートポリスの事業に、橋を加えるという段階で、アドバイザーとして、仕事をしました。そのなかで、『鮎の瀬大橋』という橋の建設が記憶に残っています。通潤橋の南側の緑川上流に架けられた橋です。

ある建築デザイナーの設計でしたが、地震の時に橋の端が浮き上がることがわかり、どうするか議論しました。

浮き上がりを止める装置を造るという提案がなされましたが、維持管理に難があるということで、コンクリートの重りをつけるという私の案が採用され、いまでもその仕事の結果を見ることができます。（写真参照）

――近くへ行く際はのぞき込んで先生のご苦労を想像しながら観察したいと思います。

最後に、皇居での伝達式について（11 月 11 日重光章勲章伝達式に御出席）教えてください。

叙勲受章で皇居へ

﨑元 通常は配偶者同伴ですが、新型コロナの影響で、私ひとりで行ってまいりました。当日は春秋の間で 40 名強の方々が間隔を空けて座り、伝達式を待っていました。

――ここでもコロナ対策ですね。

﨑元 そうです。本学でも感染対策本部、感染対策ワーキンググループの方々を中心に尽力されていますが、「間隔を空けた座席」に座って待っていると、ひとりずつ名前を呼ばれ、松風の間に入室し、管総理から受章しました。

わたしは 10 番目に呼ばれたのですが、思ったほど緊張しませんでした。

その後、春秋の間に戻って勲章を付けてもらい、豊明殿で天皇陛下を待ちました。

――（ここだけの話ですが、）「今、待機中です。」と実況中継を受信したときは、こちらが緊張いたしました。

﨑元 確かに、そんなことをしているのは私だけだったかもしれません。そうこうしているうちに、陛下がお出ましになり、目と目を合わせてこれまでの歩みをねぎらってくださいました。その後、受章者 11 名ずつで写真撮影をして宿泊施設へ戻りました。貴重な経験でした。

――皇居での写真撮影時の写真を見つけました。なんとお隣に小泉前首相の敏腕秘書、飯島さんでしたね。

﨑元 この方に、みなさん挨拶するなぁ、と思っていたのですが有名人だったのですね。

――他にも何か思いがけないこと等ありましたか?

﨑元 皇居への行き来にハイヤーを使いました。ハイヤーは帰りの乗車まで待機しているのですが、4 時間で 25,000 円でした。貴重な驚愕した経験でした。

――それは送迎+待機でなく観光で使いたかったですね。

﨑元 海外からの観光客がよく使うらしいのですが、「今年はコロナでさっぱりです…」とは運転手さんの言葉です。

最後に、私事にこんなに紙面を使っていただいて、とても申し訳なく恐縮しています。ありがとうございました。

瑞宝重光章・副章

――こちらこそお時間をとって先生の歩まれた貴重なご経験を教えていただき、ありがとうございました。

ほんの一部しかお聞きできませんでしたが、どれもとても面白く興味深い『﨑元達郎先生史』でした。

これからも、先読み力を発揮され、引き続きのご活躍をお祈りしています。

（聞き手:企画・人事課 永野）